観光手引 ベトナム語訳

Ibusuki「天国にいるよう」
Yakushima「長生きできそう」

福岡女学院大学（福岡市）の研究室が、指宿・屋久島広域観光推進協議会の観光リーフレットのベトナム語版を作った。中心になったのはベトナム人留学生。2015年12月、初めて鹿児島を訪れ、「景色がすごくきれいで、人がやさしい。古里に帰ったよう」と感動。家族や知人に「ぜひ紹介したい」と翻訳を思い立った。

福岡女学院大学 留学生・ズンさん 印象交え紹介

人文学部現代文化学科・寄藤昌子准教授の研究室で、留学生は3年生のグェン・ティ・ズンさん(22)。同協議会の「北部九州の大学関係者等招へい事業」で招待された寄藤准教授に同行し、2泊3日で屋久島と指宿を訪れた。

屋久島では島を一周し、白谷雲水峡や屋久杉自然館へ。指宿では生まれて初めて温泉を体験した。砂むしも満喫し、「ベトナムの人に魅力を知ってほしい」と思った。

しかし、A3判二つ折りのリーフレットの外国人向けは英語と中国語版のみ。招へい事業の報告書とは別に、寄藤准教授のアドバイスを受けながら日本語版の翻訳に挑戦することにした。

直訳ではなく、感じたことも書き入れた。屋久島を総括した紹介部分では「人間と自然が近くて、自分も長く生きられそうな感じがする」、指宿は「天国にいるみたい。日本で一番きれいな温泉はリラックスできる」などという表現にした。

3月には屋久島町を訪れて翻訳版を贈呈し、指宿市にも郵送した。今後、ベトナムの日本語学校などにも知らせる予定という。

（下舞幸作）

ベトナム語版リーフレットを手にするグェン・ティ・ズンさん(左)と寄藤昌子准教授 ＝福岡市